

寄稿

今年こそ「無尽蔵」の力を！

小田原市長 加藤 憲一

14年前の今日、阪神淡路大震災が発生しました。西宮にて私塾を経営していた友人からの応援要請を受け、延べ20日間 西宮を拠点として復旧・復興のお手伝いをさせて頂きました。

えるものです。

大震災が発生しました。西宮にて私塾を経営していた友人からの応援要請を受け、延べ20日間 西宮を拠点として復旧・復興のお手伝いをさせて頂きました。

家族を亡くし、家は倒壊し、家は無尽蔵の力を支えたのは、他ならぬ人の力でした。各地から駆けつけたボランティアたちは「困難」な時代。しかし、私たちに、「無尽蔵」の

困難もないでしょう。しかし、その窮状からの立ち直りを支えたのは、他ならぬ人の力でした。各地から駆けつけたボランティアたちは「困難」な時代。しかし、私たちに、「無尽蔵」の

誰から頼まれた訳でもなく、ただ衝動的に、「何とかしなくては！」との思いで、全国から数え切れない人たちが、次から次へと湧き出るように集まりました。そして「自分にできることは何か」を探し、物心両面で被災地の復興を支えたのです。そのエネルギーたるや、まさに「無尽蔵」。

今思えばその時の体験こそ、こうして小田原市長として市民の命を預かる仕事をさせて頂く、その原点とも言える事象の中で、これほどの

慣れない避難所生活の疲れも日に日に重なり、元の暮らしに戻れるまでどれほどの時間がかかるかも分からない。現代人が遭遇している事象の中で、これほどの

困難だからこそ、発揮された力だと言えましょう。

私たちが小田原市民の日常的な暮らしにも、そして本市財政にも、確実に影を落とすことでしょうか。客観的に「困難」な時代。しかし、私たちに、「無尽蔵」の知恵と力があります。郷土を愛する心。人を思いやる気持ち。次の世代への責任。今こそ、私たちの知恵と力をお互いに発揮し、「新しい小田原」の土台を造ろうではありませんか。



かとうけんいち：1964年小田原生まれ。小田原高校、京都大学法学部卒。経営戦略コンサルティング会社、民間教育団体、農業、商業ビル企画管理、地域シンクタンク代表などを経て、2008年より小田原市長。妻と子ども2人の4人家族。

困難だからこそ、発揮された力だと言えましょう。

昨年来の全世界を覆うとする経済不安が、今年は

おだわらを拓く力

加藤けんいち後援会代表／飯田 和

小田原市栄町2-13-1-2F

TEL0465-21-5260

FAX0465-21-5261

http://www.katoken.info

加藤憲一日記 更新中!